

第 16 期 pES club シナリオ 3

平成 28 年 3 月 19 日
東京北医療センター 総合診療科
南郷 栄秀
<http://spell.umin.jp>

あなたは、名羅手部総合病院内科に勤務する卒後 3 年目の専攻医です。灰遠担太 (72 歳、男性) さんは 3 日前からの発熱、喀痰、咳嗽で当院を受診しましたが、胸部聴診で右下肺野に coarse crackles を聴取し、胸部 X 線で右下肺野に浸潤影を認めたため、肺炎と診断しました。A-DROP は、年齢および BUN 25 mg/dL で 2 点だったため入院し、喀痰グラム染色で poly microbial patter だったことから、SBT/ABPC 1.5g q6h で治療を開始しました。症状は改善し、2 日後には解熱、喀痰培養で肺炎球菌 (PSSP) が検出されたため、4 日目からは AMPC 750mg 3×に変更し、抗菌薬開始から 10 日間経過する明後日に退院予定です。

楠力「経過はいいようだね」

あなた「はい。ご本人はまた肺炎になるんじゃないかと心配していますけど」

楠力「肺炎は再発するからねえ。予防するにはどんな方法がある？」

あなた「肺炎球菌ワクチン、嚥下障害の治療、胃瘻患者のガスモチン®、抗パーキンソン薬とか。 . . 」

楠力「いいねえ。この患者さんは肺炎球菌ワクチンを打っていないね。それと、ビタミン D も効果があるらしいよ」

あなた「あ、そうなんですか？」

楠力「最近、わかってきたらしい」

あなた「でも、ビタミン D って骨粗鬆症の薬ですよ？この患者さんには骨粗鬆症はありませんよ」

あなたは楠力先生に失礼なことを言ったかなと思いましたが、肺炎の再発予防のためにビタミン D が有効なのか、自分でも調べてみることにしました。